

主日礼拝8月7日（日） ＜平和聖日＞

題 「隔ての壁を取り壊し」

テキスト：エフェソの信徒への手紙2章14～22節

皆さん、おはようございます。

8月に入りました。「平和」の大切さを思う月です。この時期が来ると思い出す俳句があります。

「八月や六日九日十五日」（はちがつや むいか ここのか じゅうごにち）.

「戦争を忘れないように」という気持ちを込めて詠まれたとされています。

俳句の世界では「知られた一句」とされている句であるとのことで、「不戦の気持ち」を詠んだ句として扱われることもあるとのことです。

先の日本の起こした戦争で、1945（昭和26年）年8月6日、広島にアメリカによって原子爆弾が落とされ多くの犠牲者が出ました。今なお苦しんでおられる方々がおられます。また、8月9日には長崎に原子爆弾が落とされました。そして8月15日、日本は敗戦を認め時の天皇の言葉で日本国民に対して完全降伏をラジオを通して知らせました。戦後77年がたち、見かけ上は日本は平和な国となっています。また今年は、1972年に戦争の代償としてアメリカに支配されていた沖縄が日本に返還されました。そして50年の節目を迎えています。沖縄は返還されましたが、今なお沖縄には日米地位協定に基づき多くのアメリカ軍の基地がある状態です。昔そこに住んでいた人たちは、その先祖からの土地には入れない状態が続いていました。米軍基地のことは解決しなければならない課題だと思います。

見かけ上は平和と言われますが、本質はそうなのだろうか？と思わされます。

さて聖書では、旧約聖書の時代から平和「シャローム」という言葉が大切にされて来ました。新約聖書の原典のギリシア語では「エイレネー」という言葉です。聖書の地イスラエルでは日常に使われる言葉で「平和・平安」と表す挨拶のことばです。「こんにちは、さようなら」という挨拶としても使用されます。良い言葉だと思いますし、日本人でも知っている人は意外に多いと思います。長い歴史を経て、今や世界の共通語になっているのかもしれませんが。このシャロームという言葉には、単に戦争や争いのない状態だけではなく、心の状態だけということでもなく、わたしたち人間が生きていく上での必要が満たされている状態を表しているのだと言われます。

心の面でも、生活や健康の面でも必要が満たされている、平安、平和、それがシャロームなのです。ですからイエスさまが言われた「平和を実現する人々

は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」とのことばの重さと大切さを思います。この世では平和は完成しているのではなく、平和の実現が目指され、作られていく、その歩みこそが大切なのです。

イエスに心つなげるキリストにある者たちは、その先頭に立っているのではないだろうかと思わされます。

聖書のことばに耳を傾けたいと思います。

「14:実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、とあります。」 キリストがわたしたちの平和であると言われます。

また「御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、とあります。」と記されています。つまり、イエス・キリストは、ご自身の十字架の死によって、敵意という隔ての壁を取り壊されたのだということです。この敵意という力が、平和を破壊する力なのです。「隔ての壁を取り壊された」とありますが、イエスさまが地上を生きられた時、今から約1990年前、イスラエルのエルサレムには神を礼拝する大きな立派な神殿がありました。今ではその神殿の西壁の一部だけが残っています。

この神殿に内部に入れる者がイスラエルの人々、ユダヤ人の男性だけに限られていたのです。それ以外の当時異邦人と呼ばれていた外国人は神殿の内部には入れなかったのです。そのため、ここまでと決められた、内と外を分離する壁が設けられていました。一説には1.5mほどの高さだったようです。

これが「隔ての壁」と言われているものです。「この分ける」ということが、後にわたしたち人間に互いの心に敵意を生み出すのです。ここに差別や憎しみや敵意が生じてくるのです。分けるということは極力慎重でなければならないことだと思わされます。

しかし、主イエスは、ご自分の身体を十字架の上に捧げ、その隔ての壁を壊し敵意を打ち砕いて、誰でも神さまを礼拝できるようにして下さったのです。歴史的には紀元70年にエルサレム神殿はローマ帝国によって破壊されました。主イエスは、すべての人が天と地をお創りになった神さまを礼拝するための隔ての壁を取り除かれたのです。当時ユダヤ人と外国人を分けていたものは、ユダヤ教の規則・掟です。これを破棄されたのです。

15:規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、

双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、

16:十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。

神は独り子イエスをこの世に送り敵意の基、原因となっていた規則を壊されたのです。これは神さまの自由な意思なのです。

そこから、ユダヤと異邦人・外国人（今日の聖書に即するならエフェソの人々）を分離していた法律はもはや無用となったのです。

これはイエスさまが人類に与えてくださった最大のシャローム・平和の福音、「よき知らせ」なのです。平和とは、単に仲よく見えるように一つになるということではなく、互いの違いを認め合って「共存する」ということにあるように思えます。

「共にある、共にいる」ことを認め合うことが平和なのです。身近な所から、広がって、地域・社会、国、地球的規模で、共にあること、共存することを理解し合う努力が必要だと思えるのです。

17:キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、
近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。

18:それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。

すべての人が愛なる神さまの子ども、神の子なのです。

神さまは、人々が人種を超えてひとつとなっていくことを願っておられるのです。過去においても、現在も、未来をもです。しかし、今でもわたしたち人類は分けたがるのです。わたしたちキリスト者は、すでにキリストの良き知らせを受けとったのです。ですから人は、地域や国家・人種の違いを超えて、神さまの愛の霊に結ばれてつながっていけることを知っている者たちなのです。

戦争は、それと反対です。関係を強要しようとして、関係を破壊するのです。ロシアのウクライナ攻撃はその最たるもののように思えます。

世界は、現実はまだ平和の共存とはなっていないなくても、主イエスさまに希望をおいて歩むことはできるのです。教会内を始め、地域や、住んでいる国が違いを認めつつ、つながりを持って生きていけるように心開いて祈りを篤くして歩んで行けるのです。愛なる神さまは、そのような世界を用意してくださっているのです。わたしたちは、神さまの備えられた平和の中に共に憩うことができるのです。

昨日の新聞に、広島で被爆者された18歳の時、被爆された95歳になる阿部静子さんの言葉が出ていました。彼女の語ります。

「1945年8月6日朝。空襲に備えて家屋を倒す作業のために動員されて住宅の屋根の上にいた。

原爆投下後、屋根の下に吹き飛ばされた。爆心地から 1、5 キロ。
気づくと顔や体から皮膚が垂れ下がっていた。原爆投下直後の悲惨な情景としてよく語られる「幽霊のような人々」の一人になっていた。戦後、救いを求めて被爆者運動に加わった。64 年「被爆者巡礼」に加わり、米国へ。トルーマン大統領にも面会した。

「この兵器が使われれば地球は終わりです。」と語っておられます。
周囲の支えによって元気を取り戻した。
今、伝えたいことは、との問いに対して。「優しさこそ平和の原点です。」と。
言われていました。
わたしは思い、祈ります。「神さま、プーチン大統領に優しさの心を注いでください。」と。真の優しさは、神さまの力によって、心の壁をも砕く力があると信じたいのです。「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」。この世では平和は完成しているのではなく、平和の実現が目指され、作られていく、その生き方こそが大切なのです。

ご存知のように沖縄の文化や歴史を伝えてくれる首里城は
2019年10月31日未明に火災により焼失されましたが、再建の志が与えられ2026年完成を目指して現在も工事が進められています。
首里城が戦争のない、平和の大切さを後々までも伝えてくれるために、無事の完成を祈りたいものです。
暑い日々、希望を持って生きて行きましょう。

シャローム！ 主の平安を祈ります。